

# 香取遺産

Vol.125

近代の土木遺産

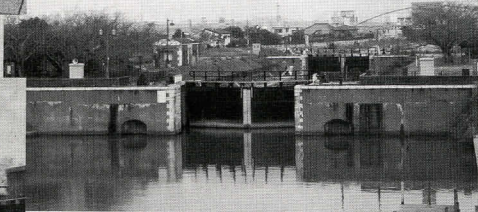
横利根閘門と中川吉造胸像

岡生涯学習課

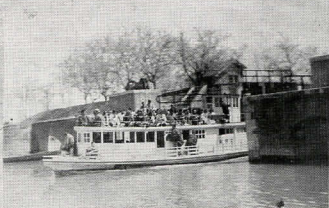
☎(50)1224



▲中川吉造胸像



▲横利根閘門全景



▲船の通航（昭和初期）

市の北部を西から東へ流れる利根川は、「坂東太郎」の異名を持つ全国屈指の河川です。

古くは江戸湾へ注いでいましたが、江戸時代の大規模河川改修により、東へ流れを変え、銚子で海へ注ぐようになりました。

これにより中下流域には肥沃な穀倉地帯が広がりましたが、その一方で大雨による氾濫にも悩まされました。

このため、近代になると政府による大規模な「利根川改修工事」が行われます。工事は明治33年（1900）から3期に分けて、主に洪水を防ぐための築堤や河床の浚渫、湾曲した箇所直線化、水門の設置などが行われ、昭和5年（1930）に竣工しました。

この第2期工事で建設されたのが横利根閘門です。日本で最大級の規模を持つ煉瓦造閘門で、横利根川と利根川の合流点（稲敷市西代地先ふれあい公園内）に位置しています。霞ヶ浦氾濫の主要因であった利根川高水時の逆流を防止

し、かつ高水時の船の通航を可能とする目的で設けられたものです。大正3年（1914）8月に起工、同年3月に竣工しました。

横利根閘門は、水位調整時の停船場となる閘室と、その両端で門扉を収容する閘扉室からなる、複式閘門複扉式という形式です。大小4枚、計8枚の開き戸式鋼製門扉で水をせき止め、船の交通を確保します。全長は130mほどにもなります。通行数は減ったものの現在も使用されており、平成12年に重要文化財に指定されました。

なお閘門の附指定として、対岸の利根川堤防には、利根川改修工事、横利根閘門建設に尽力した中川吉造の胸像所があります。中川吉造は明治4年（1871）、奈良県高田町（現大和高田市）に生まれ、明治27年（1894）帝大卒業後に内務省に入省し、東京土木出張所長などを歴任、昭和3年（1928）に内務技監になりました。近代河川土木技術事業の先駆者です。